

一般社団法人日本医真菌学会 2022 年度第 3 回理事会議事録

日時：2023 年 8 月 30 日（水）18：00～20：20

場所：(株)春恒社会議室+オンライン開催（Zoom）

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 階

出席：澁谷和俊（理事長）

泉川公一、金子健彦、神田善伸、杉田隆、原田和俊、福田知雄、榎村浩一、  
宮崎義継、矢口貴志、山岸由佳 以上理事 11 名

小川祐美、長尾美紀 以上監事 2 名

阿部雅広、掛屋 弘、佐藤友隆、森 毅彦、若山 恵 以上幹事 5 名

議題：

1. 第 4 回～第 8 回メール審議結果報告（澁谷理事長）

2022 年度第 4 回～8 回のメール審議の結果を確認した。

第 5 回メール審議にて承認された「学術報告時の個人情報保護に関する指針」は学会ホームページに掲載されていることが報告された。総会会長および編集委員会に、指針に従って掲載内容を確認いただくよう依頼された。

2. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2023 年 7 月 31 日時点の会員数の報告があった。合計で 941 名となり、微減傾向であった。

3. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（宮崎理事）

①2022 年 9 月～2023 年 7 月の投稿論文数は 40 編であり、昨年並みの論文数となった。

②2023 年日本医真菌学会優秀論文賞の選出について下記報告があった。

Authors: Naobumi Tochigi, Sota Sadamoto, Shinji Oura, Yasuko Kurose, Yoshitsugu Miyazaki, and Kazutoshi Shibuya

Title: Artificial Intelligence in the Diagnosis of Invasive Mold Infection:  
Development of an Automated Histologic Identification System to Distinguish  
Between *Aspergillus* and Mucorales

(Medical Mycology Journal Vol. 63 No. 4 に収録)

④直近の掲載号で和文論文の掲載見通しが立たず、新たに和文総説を確保するため、委員各位よりテーマと執筆者を募り、順次執筆依頼を進めることとした。和文誌継続の適否について意見が出たが、継続と廃止で拮抗したため、当面次年度までは掲載継続とし、継続審議となった。

⑤2023 年 6 月 28 日にクラリベイト・アナリティクス社より“Journal of Citation Index”（JCR）2023 年版のリリースが発表された。Medical Mycology Journal は Emerging Sources Citation Index に掲載されているため、今回の発表をもってインパクトファクターが付与されたことになる。Journal Citation Reports™の機関契約のある委員が確認したところ、現状のインパクトファクターは IF=1.0 であることがわかった。今後は、インパクトファクターの公示方法を協議のうえ、会誌ウェブサイトやオンラインジ

ジャーナル上に公示する。

⑥インパクトファクターが付与されたことにより、投稿規定を改定する。改定案をメール委員会にて審議、適宜加筆修正し、理事会で審議する予定である。

## 2) 用語委員会 (矢口理事)

*Coccidioides immitis* のカタカナ表記は、現在「コクシディオイデス・イミチス」となっているが、疾患名と統一して、「コクシジオイデス・イミチス」とすることが提案され、承認された。また、コクシジオイデス症の病原体として現在 *Coccidioides immitis* のみがあげられているが、*Coccidioides posadasii* も併記される可能性がある。その場合のカタカナ表記は「コクシジオイデス・ポサダシイ」とすることもあわせて確認された。

## 3) 将来計画委員会 (神田理事)

数多くの深在性真菌症患者を診療する血液内科医の会員獲得は重要な課題である。新規抗真菌薬の上梓に伴い、学会セミナー、研究会等が増加しているため、日本医真菌学会の広報の場として活用できるため、他学会とも引き続き連携を図っていく。

## 4) ガイドライン検討委員会 (泉川理事)

### ①希少真菌症診断治療のガイドライン (仮称) 作成委員会 (掛屋幹事)

全ての原稿が集まったため、菌の分類について榎村理事の確認を経て、パブリックコメントを進める予定である。

②泉川理事より、アスペルギルスガイドラインの改訂が提案され、委員長に神田理事が推薦された。次回理事会において作成委員会の委員候補を提案することとした。

## 5) 支部会・関連学会委員会 (泉川理事)

支部会、関連学会の開催状況と開催予定について説明があり、2023年10月に北海道で第1回の支部会が行われることが報告された。

## 6) 疫学調査委員会 (福田理事)

2021年の調査結果がアクセプトされ、第67回総会で発表される。次回の調査は2026年に行うが、2024年より施設の選定を開始する。福田理事の定年時期を鑑み、皮膚科領域から後任の委員長を検討しながら進めていくこととした。

## 7) 教育委員会 (杉田理事)

第10回皮膚真菌症指導者講習会を8月26日に帝京大学八王子キャンパス 医真菌研究センターにおいて開催したことが報告された。

## 8) 広報委員会 (榎村理事)

報告事項なし。

## 9) 専門医・認定師委員会 (原田理事)

後述する。

## 10) 規約検討委員会 (金子理事)

後述する。

## 11) 倫理委員会 (長尾監事)

報告事項なし。

## 12) 利益相反委員会 (金子理事)

報告事項なし。

## 13) バイオセーフティ委員会 (阿部幹事)

報告事項なし。

#### 4. 第 66 回総会報告（澁谷理事長）

三嶋会長に代わり、収支決算書が提示され、約 250 万円の黒字となったことが報告された。

#### 5. 第 67～68 回総会準備状況報告

##### 1) 第 67 回総会報告（福田理事）

開催概要について報告があった。

会期：2023 年 10 月 6 日（金）～10 月 7 日（土）

会場：川越プリンスホテル

また、収支予算が提示され、協賛集めに苦労したが、順調に準備が進んでいることが報告された。

##### 2) 第 68 回総会報告（杉田理事）

APSM 同時開催とし、APSM は前半を、第 68 回総会は後半を中心に開催を予定しているが、両学会が重複する日程も検討している。APSM と第 68 回総会の参加費は会長判断で決定することとした。さらに、合同開催の決算について会計士に確認することとした。

会期：2024 年 11 月 6 日（水）～9 日（土）

会場：国立京都国際会館

#### 6. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

前述の APSM について、全理事会メンバーにプログラム委員の就任が依頼された。

#### 7. ICD 制度協議会報告（佐藤幹事）

報告事項なし。

#### 8. 内保連報告（森幹事）

令和 6 年度社会保険診療報酬改定提案書において、「抗アスペルギルス抗体測定 IgG」について要望を提出した。また、日本皮膚科学会から本学会を共同提案学会として、「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」も提出された。本学会としては初めて、宮崎理事を中心に厚労省のヒアリング対応を行った。採用されない場合でも要望を出すことで有意義な意見交換ができた。

#### 9. 日本医学会・医学会連合報告（若山幹事）

4 月 21 日～23 日に第 31 回日本医学会総会が開催されたことが報告された。

#### 10. 日本医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関する報告（小川監事）

医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関しては特に報告事項はないが、日本皮膚科学会のキャリア支援制度を参考に、女性医師の研究継続を支援する制度を検討していることが報告された。

#### 11. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

7 月 7 日に第 31 回日本微生物学連盟理事会、日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・病原体学分科会合同会議が開催された。

#### 12. その他

##### 1) 総会・学術集会のドメイン悪質利用への対応について（事務局）

第 64 回日本医真菌学会総会・学術集会のドメイン失効後に、悪意のある広告業者が学会名などを利用していることについて、(株) 春恒社のシステム担当者より状況説明と対策について説明があった。今後は運営会社を問わず、総会ホームページのドメインは学会が永続的に保有することが必要であるという意見があり、ホームページを管理する(株)

春恒社に管理方法の検討を依頼した。

## 審議

### 13. 2022 年度事業報告案・2023 年度事業計画案（宮崎総務理事）

2022 年度（2022 年 9 月～2023 年 8 月）事業報告案および 2023 年度（2023 年 9 月～2024 年 8 月）事業計画案が提示された。異論はなく承認された。

### 14. 2022 年度決算見込みおよび 2023 年度予算案（山岸財務理事）

7 月末時点での決算見込みと次年度予算案について説明があった。

2022 年度決算見込みは、約 170 万円の黒字見込みとなっている。希少真菌症ガイドラインの発刊が次年度にずれれたことから、ガイドライン印刷費は 2023 年度予算に回すこととし、販売収入、転載許諾料についてもカンジダ GL 分のみであった。また、会誌刊行費についてページ単価は変動がないが、ページ数が大幅に増えたことにより、約 100 万円増額となっている。また、今年は厚生労働科学研究費を給付されている日本医学会連合と受託研究契約が締結され、収入の項目として 998 万円が計上されている。

2023 年度予算案については、概ね例年通り計上しているが、規約が承認され次第、若手研究者奨学金制度が開始となるため、繰越金の 2%を上限とすることし、次年度の予算として 80 万円を計上した。2023 年度も日本医学会連合からの受託研究の継続が決定し、280 万円の研究費が計上されている。決算および予算については次回理事会で確定することとした。

会誌刊行費が増額していることを受け、宮崎理事より、印刷費を抑えるため、会誌のオンライン化を検討に入れることについて提案された。これについては編集委員会で意見を募ることとした。

### 15. 学会賞・特別功労賞選考の件（泉川理事）

1) 学会賞については期日までに推薦がなかったため、日本医真菌学会賞に関する規約 4(4)に従い、選考委員会と総会長の全員一致により、下記候補者を推薦し、選考委員会を審査した結果、受賞資格ありと認めた。異論はなく候補者の受賞を承認した。

受賞者：加納 壘（帝京大学医真菌研究センター 教授）

受賞業績：動物由来の真菌症に関する研究 —特に分子生物学的解析について—

2) 特別功労賞には下記 1 名の推薦があり、選考委員会を審査した結果、受賞資格ありと認めた。異論はなく、候補者の受賞を承認した。

受賞者：村山 琮明（東邦大学医学部 真菌感染病態解析・制御学講座）

受賞業績：*Candida albicans* の病原性因子の解析と真菌の遺伝子診断

### 16. 学術賞・次世代研究者賞選考の件（杉田理事）

学術賞・次世代研究者賞ともに、期日までに推薦がなかったため、日本医真菌学会学術賞に関する規約・次世代研究者賞に関する規約 5(6)に従い、選考委員会と総会長の全員一致により、下記候補者を推薦した。選考委員会を審査した結果、受賞資格ありと認めた。異論はなく候補者の受賞を承認した。

#### 1) 学術賞

受賞者：木村 雅友（橋本市民病院 病理診断科 部長）

受賞業績：深在性真菌症における真菌の形態と染色性に関する病理組織学的研究

#### 2) 次世代研究者賞

受賞者 : 比留間 淳一郎 (東京医科大学 皮膚科学分野)

受賞業績 : 本邦における抗真菌剤耐性白癬菌の疫学的研究

受賞者 : 宮澤 拳 (国立感染症研究所 真菌部)

受賞業績 : アスペルギルス属糸状菌の細胞表層構造の理解とその応用に関する研究

#### 17. 専門医認定の件 (原田理事)

##### 1) 2023 年度専門医審査結果

新規 5 名、更新 12 名、留保 1 名を合格としたことが報告され、異論なく承認された。

新規 (5 名)

加倉井 真樹	加倉井皮膚科クリニック
櫻木 友美子	産業医科大学皮膚科学教室
梶野 富輝	国立国際医療研究センター血液内科
栃木 直文	東邦大学医療センター大森病院病理診断科
ニッ谷 剛俊	恵寿総合病院皮膚科

更新 (8 名)

掛屋 弘、木村 有太子、佐藤 俊樹、竹中 基、常深 祐一郎、中山 晴雄、光武 耕太郎、渡邊 晴二

更新 65 歳以上 (4 名)

澁谷 和俊、細川 篤、森 健、渡辺 晋一

留保 (1 名)

長谷 翠

##### 2) 規則改定の周知について

昨年、専門医更新時に 6 年間で最低 2 回は総会へ出席するよう、規則の改定を行ったが、まだ十分に周知されていないと思われるため、ホームページの表記を変更し、会員への周知を行うこととした。

#### 18. 名誉会員および功労会員の推薦 (澁谷理事長)

以下の名誉会員 1 名、功労会員 1 名が推薦され、就任いただくことを理事会の総意とした。

名誉会員 原田敬之 (原田皮膚科クリニック)

功労会員 小原共雄 (小原医院)

#### 19. 若手研究者奨学金に関する規約について (金子理事)

日本医真菌学会若手研究者奨学金に関する規約案が提出され、異論なく承認された、代議員会で承認され次第、募集を開始し、年内には選考することを検討している。

#### 20. 第 69 回総会会長選出の件 (澁谷理事長)

2025 年第 69 回総会会長に山岸理事が推薦され、異論なく承認された。

#### 21. その他

##### 1) MIC 測定プレートの添付文書について (澁谷理事長)

亀井克彦先生より MIC 測定プレートの添付文書について、現行の測定法にそぐわない箇所があり、学会からの注意喚起文書を発出することの提案があった。会員への周知文書案が提示され、後日メール審議を行うこととした。

##### 2) イトリゾール内用液 1% 供給停止に関する請願書について (宮崎理事)

イトリゾール内用液 1% 供給停止に関して、ヤンセンファーマ株式会社より、請願書があ

った。供給停止は致し方ないという意見もある一方、学会からの意見書を提出してみてもよいという意見もあり、まずは他学会やメーカーに問い合わせを行うこととした。

3) 深在性真菌症の診断・治療ガイドライン 2014 の完売見込みと今後の転載許諾について（澁谷理事長）

出版社の協和企画より、深在性真菌症の診断・治療ガイドライン 2014 が完売になったと報告があり、これまで転載許諾申請は協和企画が窓口となっていたが、今後の手続きについて問い合わせがあったことが報告された。本ガイドラインについては、作成者より著作権の譲渡を受けており、譲渡合意書を再度確認し返答することとした。

4) 総会前日の各種委員会開催について（澁谷理事長）

以前は総会前日の理事会前に各種委員会を開催していたが、総会会長の負担が増えることと、重複する委員が多く会議が成立しないことがあったため、事前に Web やメールで審議することが提案され、異論はなかった。現地開催の必要な委員会については申し出ることとした。

5) Web 選挙システムについて（事務局）

(株)春恒社のシステム担当者より Web 選挙システムおよび会員マイページシステムについて説明があった。次回理事会での継続審議事項とし、理事会で承認された場合は、代議員総会で報告を行い、導入を進める。

6) 第 70 回総会会長選出の件（澁谷理事長）

近年は 2 年前では会場を抑えるのが大変になっているため、3 年後まで総会会長を選出することが提案され、承認された。2026 年第 70 回総会会長に榎村理事が推薦され、異論なく承認された。

7) 佐藤製薬株式会社からの寄付について（原田理事）

佐藤製薬株式会社より、年間 50 万円の寄付金の提案があったことが報告された。5 年間は継続いただける予定で、学会での使用用途は問わないとされている。一同異論はなく、次回理事会に具体的な内容を提案することとした。

## 報告事項での審議事項

1) 教育委員会（杉田理事）

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会（総会長 大塚喜人先生、亀田総合病院臨床検査部、2024 年 2 月 9 日～11 日）において、榎村理事をオーガナイザーに共催シンポジウムを行うことが承認された。非会員が演者となった場合の参加費は学会で負担することが提案され、異論なく承認された。

以上

2023 年 8 月 30 日

議事録作成人 澁谷和俊

議事録署名人 小川祐美

議事録署名人 長尾美紀